札幌市長　秋元克広　様

2024年5月10日
日本共産党札幌市議団
団長　池田　由美

長谷川岳参議院議員への対応にかかわる申し入れ

長谷川岳参院議員の本市職員にたいするパワハラ疑惑、同議員対応にともなうGX（グリーントランスフォーメーション）担当部局職員をはじめとした過重労働が報じられ、市民の関心の広がりとともに、市長の対応が注目されてきました。

問題の根本要因は、長谷川議員の威圧的な「ものいい」「表現方法」にあり、市長は、今後改めていただくことを約束いただいたと説明しています。しかし、職員が委縮するような状況を把握しながら、長期間にわたり改善されてこなかったことは深刻です。

本市は4月10日、「まちづくり政策局プロジェクト担当部」（当時）が長谷川議員に面会するためにおこなった出張一覧（26件）を公表しましたが、出張の結果報告は口頭によるもので「復命書」等は存在せず、「出張命令書」には、「職員の身体的負担を考慮」して帰札時間に配慮した事例や、「急な用務のため挙証書類を揃えることができなかった」など、担当職員が緊急な出張に迫られて多忙を強いられた様子が見て取れます。

同じく、4月23日公表の同議員との個別面談に係る出張回数と経費の調査結果によると、同国会議員との面談回数は、GX関連用務116回を含む284回（1職員1回と換算）は、他の国会議員と比べても群を抜いて多く、特に部課長の面談回数は突出しています。

一般的に、訪問先の日程や意向を考慮しない出張の起案はありえません。同議員を窓口とした各省庁などとのすり合わせや調整も同様であり、長谷川議員の威圧的な「ものいい」についても、GX関連用務での面談にとどまらない可能性があります。

同議員への批判とともに、精神的なダメージを受け、長時間労働を強いられたという市職員の訴えや報告を真摯に受け止めて、以下の対応をおこなうよう求めるものです。

記

1. GX関連用務に携わる職員以外からも、出張の際に、威圧的と感じたなどの報告などがあがっていないのか確認し全庁的な把握に努めること

2. 長谷川議員への対応の必要性から業務量が増えることがなかったのか、出張の結果報告において確認すること

3. 市長は、職員の安全配慮義務を根拠に、威圧的な言動を繰り返す外部の人物については、会話を録音する考えがあると発言されていますが、〝外部〟の中には一般的には市民も含まれ、録音などの導入は、プライバシーの問題にもかかわることから導入ありきの検討はおこなわないこと

以　上